



来村した「くまモンとかなばあちゃん」

**Q** 九州新幹線の全線開業は大いに喜ばしい事ではあるが、今後は国内だけでなく海外に目を向けることも重要と思う。その為の村としてのアプローチや考えは？

## 観光の振興策を問う



岩代 一宏 議員

**A** 将来的には必要なこと。まずは今あるものを生かしたい

### 企画観光課長

まずは広域的な事業に乗っかる形で進めたい。阿蘇では「ゆるっと博」の年間開催、公共交通網の整備、また観光と農業が一体化する「がんばる地域支援事業」の取り組み、PPキヤッチフレーズやマスコット「かなばあちゃん」をさらに生かしたい。

### 村長

国際化という観点からすればジオパークの認定、あるいは世界遺産の登録についても早く進めたい。「食」の観点からは、安心・安全で美味しいもの、そしてここにしかないという特色のあるものを作っていくべきだ。また観光案内所の機能もさらに強化を図りたい。

## 自主財源を増やす具体的な取り組みは

### Q

合併特例措置は平成27年度から5年間で暫定的に廃止される。そこで自主財源の確保が急務である。例えば本村には豊富な湧水群があり、これらを飲料水として

もっと利用すべき、と考えるが、具体的な考えは。

**A** 緩和のための基金をさらに積み上げたい。水については大きな課題と認識している

### 村長

税収が大きく落ち込んでおり、徴収体制の見直しも急務である。企業誘致についても今後力を入れたい。また遊休土地の有効利用についても積極的に取り組みたい。水の製品化については、機はくすいが取り組んでおりこれをしっかりと支援していくが、販路の拡大は海外顧客も含め大きな課題と認識している。



水加工場はくすい



水加工場製品



施政方針を述べる長野村長



23年第1回定例会